

写真



写真 (No.128①)
波蝕棚。
海岸線には砂浜が広がる。
遠方に見えるのは、辺野古崎沖合の平島。

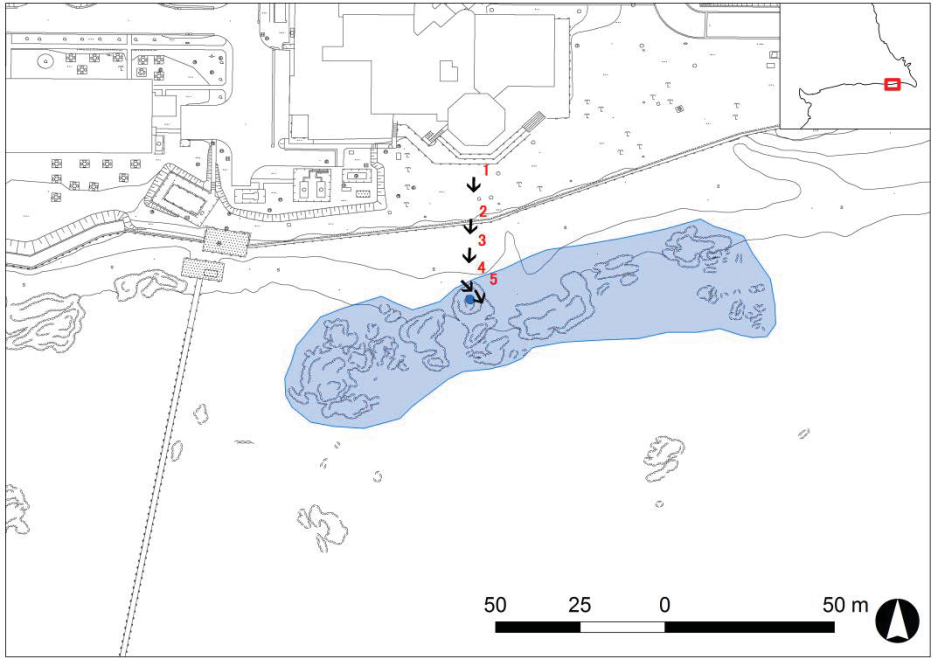


写真 (No.128②)
同上。



写真 (No.128③)
波蝕棚の地質は嘉陽層の砂岩・泥岩が卓越する互層。
走向・傾斜は、S80W、45° (NNW)で、北北西向きに傾いている。

付表- 4.2.2.39(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 129)

No.	129
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 30 日及び 7 月 2 日
概要	<p>辺野古崎の西方約 450~500m に位置する辺野古崎西方海岸の波蝕棚。</p> <p>No.128 の波蝕棚と連続している。</p> <p>海岸線には砂浜が続いている。</p>
位置	 <div data-bbox="416 1265 853 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.129 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 14.7941" ・経度:128° 02' 55.0114" ・標高(EL):1.824m ・標高(DL):2.987m </div>
形状・構造	<p>辺野古崎の西方の辺野古西方海岸で東側の No.128 の波蝕棚と連続する。堤防から 25~30m 前後離れた場所で、その間には砂浜が連続する。高さ約 1.1m の岩棚の上で位置情報を獲得するための測量を行った。岩棚は嘉陽層の互層で、走向・傾斜は S70W、52° (SSE)である。</p>
規模	<p>海岸線に沿って、幅約 120m、沖合に向かって約 30m の広がりをもつ波蝕棚である。</p>
その他 (保存状態)	<p>保存状態は良好であるが、海岸線には砂が堆積し、砂浜を形成している。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.129 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 14.7941"
- ・経度:128° 02' 55.0114"
- ・標高(EL):1.824m
- ・標高(DL):2.987m



調査地点:No.129(波蝕棚)

撮影日時:2014.6.30 16:19



位置情報:緯度 26° 31' 15.23"
経度 128° 02' 54.67"
撮影方向:南東



位置情報:緯度 26° 31' 15.01"
経度 128° 02' 54.63"
撮影方向:北西



位置情報:緯度 26° 31' 15.26"
経度 128° 02' 55.62"
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 15.13"
経度 128° 02' 55.68"
撮影方向:南南西

写真

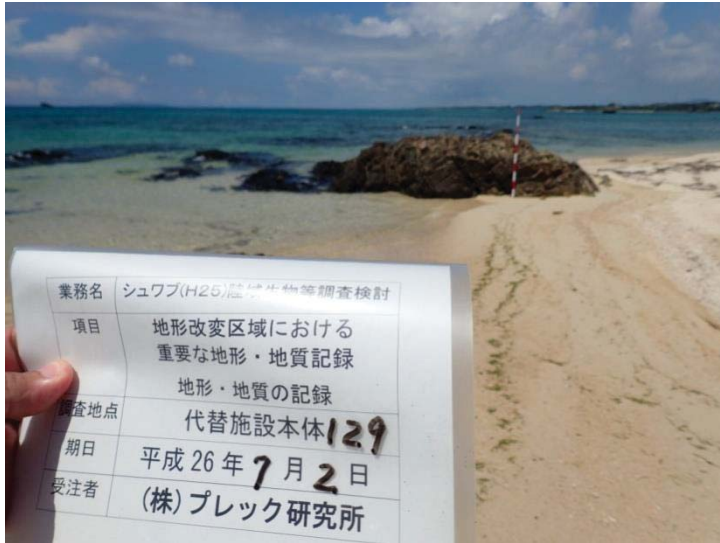


写真 (No.129①)
波蝕棚。
位置データを取得したのは汀線に近い、やや高さのある波蝕棚である。海岸線には砂浜が広がっている。




写真 (No.129②)
同上。



写真 (No.129③)
同上。

付表- 4.2.2.40(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.132)

No.	132
種類	波蝕棚、トンボロ
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 30 日及び 7 月 2 日
概要	辺野古崎の西方約 650m に位置する辺野古崎西方海岸の波蝕棚。 地質は嘉陽層の互層で、走向・傾斜は、S40W、30° (NW)である。 堤防と波蝕棚の間は砂浜で、波蝕棚はトンボロ状に陸に繋がっている。
位置	 <div data-bbox="405 1218 839 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.132 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 14.7549" ・経度:128° 02' 49.5984" ・標高(EL):0.540m ・標高(DL):1.703m </div>
形状・構造	辺野古崎の西方、堤防から 15~20m 前後の場所に位置する波蝕棚である。堤防と波蝕棚の間は砂浜で、波蝕棚はトンボロ状に陸に繋がっている。岩相は暗褐色を呈する嘉陽層の互層で、走向・傾斜は、S40W、30° (NW)で北西向きに傾斜している。
規模	波蝕棚は、堤防に沿い幅約 150m、沖合に向かって約 50m の広がりを有するが、沖合の岩までは水面が広がり、波蝕棚は海面上に断片的に見えるに過ぎない。
その他 (保存状態)	保存状態は良好である。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.132 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 14.7549"
- ・経度:128° 02' 49.5984"
- ・標高(EL):0.540m
- ・標高(DL):1.703m



調査地点:No.132(波蝕棚、トンボロ)

撮影日時:2014.6.30 16:30



位置情報:緯度 26° 31' 15.38"
経度 128° 02' 49.84"
撮影方向:南



位置情報:緯度 26° 31' 15.09"
経度 128° 02' 49.13"
撮影方向:東南東



位置情報:緯度 26° 31' 14.71"
経度 128° 02' 49.62"
撮影方向:北北東



位置情報:緯度 26° 31' 15.06"
経度 128° 02' 50.24"
撮影方向:南西

写真



写真 (No.132①)
波蝕棚。
堤防と波蝕棚の間には砂浜や砂礫の堆積がみられる。

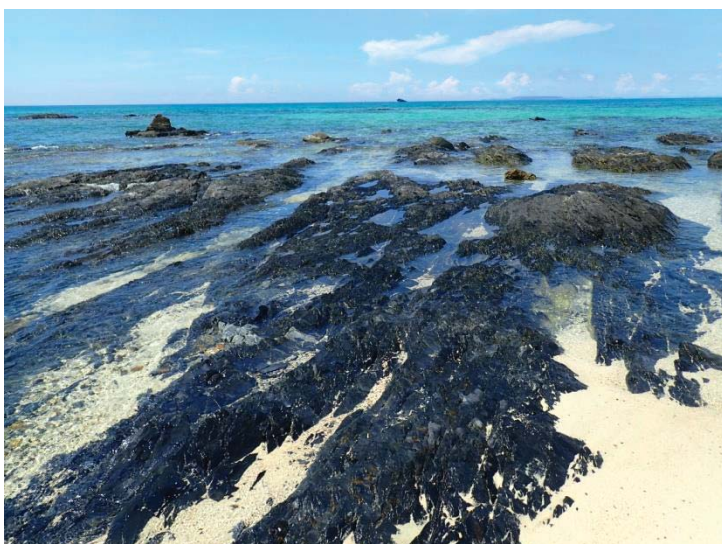


写真 (No.132②)
同上。
波蝕棚は嘉陽層の互層で、黒色味が強いのが特徴である。
走向・傾斜は、S40W、30° (NW)で、北西向きに傾いている。

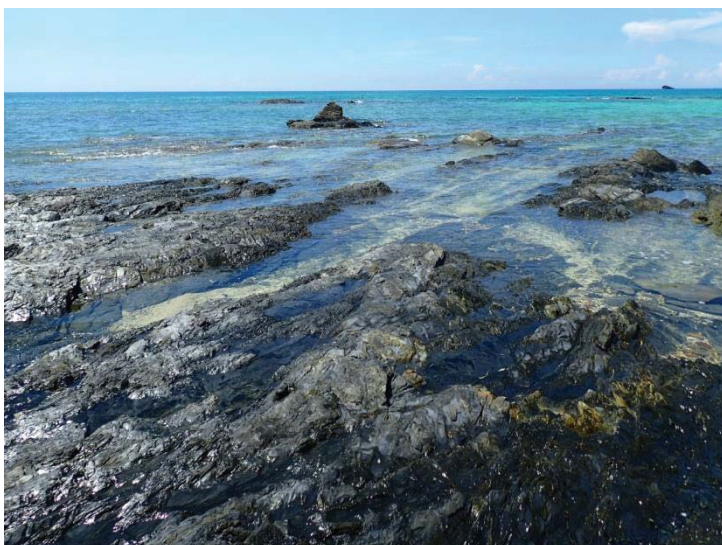


写真 (No.132③)
同上。

写真



写真 (No.132④)
波蝕棚。
堤防と波蝕棚の間に砂が堆積し、トンボロ状に陸と繋がっている。

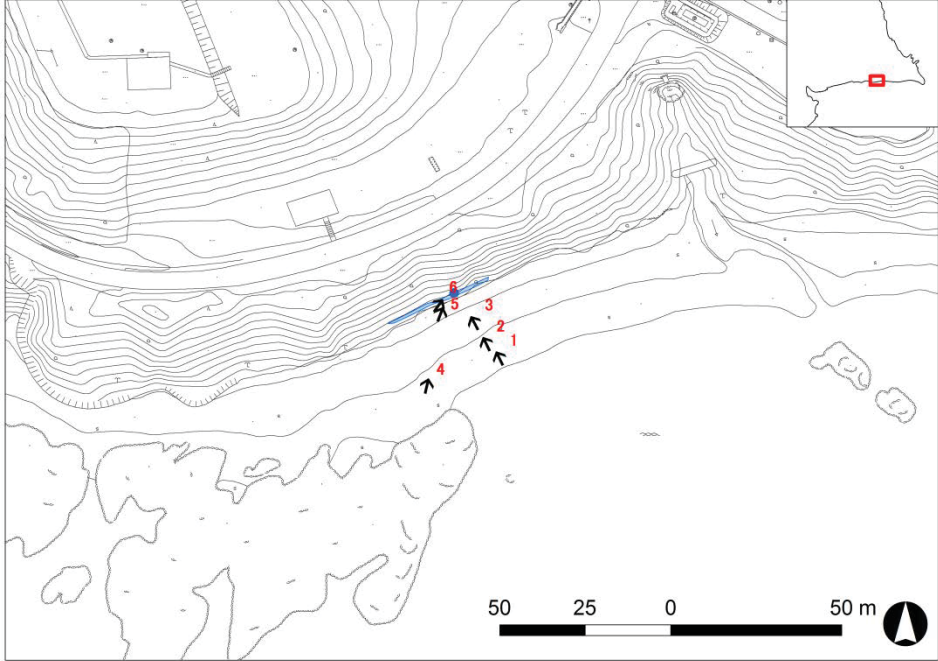


写真 (No.132⑤)
同上。



写真 (No.132⑥)
同上。

付表- 4.2.2.41(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.135)

No.	135
種類	嘉陽層の露頭(褶曲)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 7 月及び 7 月 2 日
概要	<p>辺野古崎の西方約 1,000m に位置する辺野古崎西方海岸の海蝕崖にみられる嘉陽層の褶曲の露頭。</p> <p>露頭に向かって右側は赤褐色味が強く、走向・傾斜は N45E、22° (NW)、左側は黄褐色味が強く、走向・傾斜は N60E、28° (WSW) である。</p>
位置	 <div data-bbox="411 1323 847 1491" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.135 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度: 26° 31' 15.8559" ・経度: 128° 02' 38.9656" ・標高(EL): 2.840m ・標高(DL): 4.003m </div>
形状・構造	<p>辺野古崎の西方、辺野古西方海岸の海蝕崖にみられる嘉陽層の互層で、褶曲がみられる。露頭に向かって左側は黄褐色味が強く、右側は赤褐色味が強く、色彩的に対比される。走向・傾斜は、東側は N45E、22° (NW) で北西に傾き、西側は N60E、28° (WSW) で西南西に傾いている。</p>
規模	高さ約 7~8m、幅約 30m の海蝕崖の露頭である。
その他 (保存状態)	保存状態は比較的良好であるが、崖の上部に生育するアダン等の樹木の枝葉が垂れ下がり露頭を覆いつつあり、見えにくくしている。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.135 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 15.8559"
- ・経度:128° 02' 38.9656"
- ・標高(EL):2.840m
- ・標高(DL):4.003m



業務名	シュワブ(H25)陸域生物等調査検計
項目	地形改変区域における重要な地形・地質記録 地形・地質の記録
調査地点	代替施設本体ノ35
期日	平成26年7月1日
受注者	(株)ブレック研究所

調査地点:No.135(嘉陽層の露頭(褶曲))

撮影日時:2014.7.1 6:00



位置情報:緯度:26° 31' 15.53"
経度:128° 02' 39.31"
撮影方向:北北西



位置情報:緯度:26° 31' 15.89"
経度:128° 02' 39.25"
撮影方向:北西



位置情報:緯度:26° 31' 15.85"
経度:128° 02' 39.41"
撮影方向:西



位置情報:緯度:26° 31' 15.77"
経度:128° 02' 38.89"
撮影方向:北東

付表- 4.2.2.41(3) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.135)



写真 (No.135①)
嘉陽層の褶曲がみ
られる露頭。
高さは7~8mであ
る。



写真 (No.135②)
同上。



写真 (No.135③)
同上。

写真



写真 (No.135④)
嘉陽層の褶曲が見られる露頭。



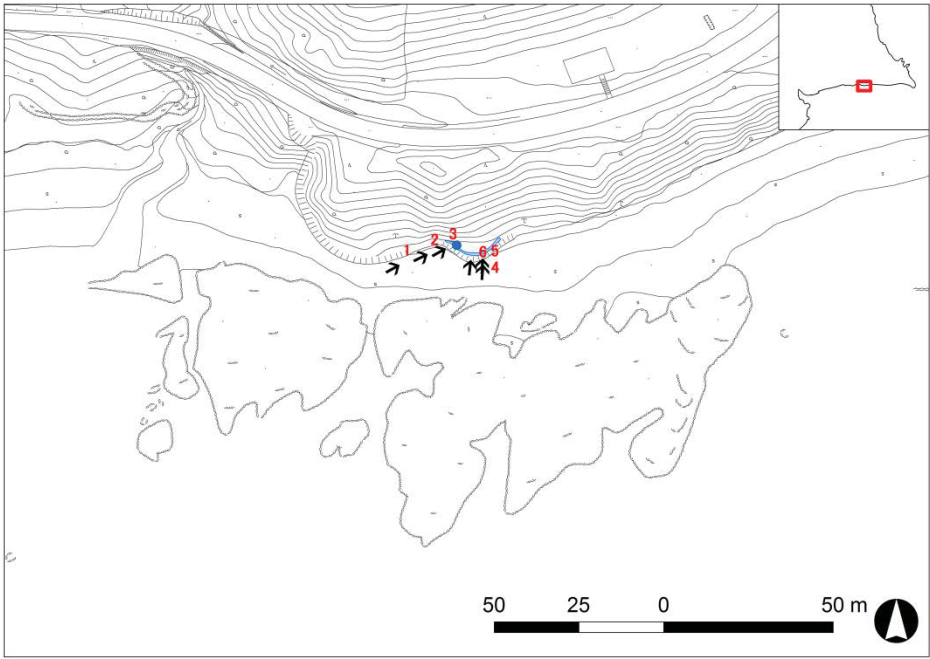
写真 (No.135⑤)
同上。
嘉陽層の互層が波打っている。
走向・傾斜は、
N45E、22° (NW)
で、北西向きに傾いている。



写真 (No.135⑥)
同上。

写真

付表- 4.2.2.42(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.136)

No.	136
種類	嘉陽層の露頭(褶曲)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 7 月 1 日及び 7 月 2 日
概要	辺野古崎の西方、約 1,000m に位置する嘉陽層の露頭で、No.137 の露頭に隣接する。非対称褶曲が観察できる。「名護・やんばるの地質」(名護博物館、2011)の p113 の第 12.144 に非対称褶曲として紹介されている。
位置	 <div data-bbox="411 1317 847 1491" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.136 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度: 26° 31' 14.9421" ・経度: 128° 02' 36.3659" ・標高(EL): 2.209m ・標高(DL): 3.372m </div>
形状・構造	辺野古崎の西方、辺野古西方海岸の海蝕崖にみられる嘉陽層の露頭で、褶曲が発達する。嘉陽層互層の走向・傾斜は、S40W、36° (NW) で北西側に傾いている。
規模	高さ約 5m、幅 15~20m の露頭で、海岸線から露頭に向かって左側に褶曲がみられる。
その他 (保存状態)	海岸線から露頭に向かって左側の奥は、高さ約 3m、幅約 4m の規模で崖面が崩落し、露頭前面に赤土が堆積している。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.136 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 14.9421"
- ・経度:128° 02' 36.3659"
- ・標高(EL):2.209m
- ・標高(DL):3.372m



業務名	シュワブ(H25)陸域生物等調査検討
項目	地形改変区域における重要な地形・地質記録 地形・地質の記録
調査地点	代替施設本体/36
期日	平成26年7月1日
受注者	(株)プレック研究所

調査地点:No.136(嘉陽層の露頭(褶曲))

撮影日時:2014.7.1 9:54



位置情報:緯度 26° 31' 14.87"
経度 128° 02' 35.90"
撮影方向:北西



位置情報:緯度 26° 31' 14.66"
経度 128° 02' 36.28"
撮影方向:東



位置情報:緯度 26° 31' 14.71"
経度 128° 02' 36.09"
撮影方向:北北東



位置情報:緯度 26° 31' 14.70"
経度 128° 02' 36.04"
撮影方向:南東